

2018年

4月10日
第313号

ゆうあい通信

発行所 石井記念友愛園

宮崎県児湯郡木城町椎木644番地1

〒884-0102 TEL 0983-32-2025

16年親子関係修復プロジェクト

園長 児嶋草次郎

今年、6名の高卒生（1名は支援学校高等部）が、桜吹雪の中、友愛園を巣立っていきました。2名が大学進学、4名が就職です。高卒で卒園する時は、「卒業論文」を書いて、お別れ会（3月17日）の時に、みんなの前で読むことになっています。

6名とも素晴らしい内容の「決意表明」を書き残してくれました。4名は2歳前後に入所、残り2名も小1と5歳くらいの時の入所で、ともに長い施設生活でした。色々あったけど、それぞれ心身とも大きく成長し、16年間で「運命を変えることができた」と言えた者もいるし、表情にはそれぞれに決意と希望が感じられました。

私はそのお別れ会で、一人ひとりに園長として送る言葉（エール）を述べることになっています。自動車学校に行っていてお別れ会に間に合わなかった者もいますし、言い足りなかった部分を補足しながら、ここにあらためて書いて送りたいと思います。

その前に私自身確認しておきたいこと、この「友愛通信」を読んで下さる方々へのアピールもあります。

私は最近、中・高校生の子立のための3原則を唱えるようにしています。①は志教育。②は基本的な生活習慣の確立。そして③は親子関係の調整・整理です。私の長い経験を通して導き出された原則です。ちなみにもう二つ加えるならば、忍耐力と優先順位です。③の親子関係の調整・整理が一番重要ですが難しい課題です。しかし、子供たちそれぞれの運命がかかっているものであり、決して先送りしたり逃げてはならない課題です。

社会的養護・養育は、まず親子関係の再構築を目的とすべきであり、子供が施設に入ろうと里親宅に行こうと、第一に取り組みねばならないことだと思います。言わば、施設養育も里親養育も、まずそのための手段であるべきです。施設養育や里親養育を最初から目的化してしまうと、子供たちにとって一番大切な親との

関係が疎遠になっていく可能性もあります。友愛園ではそれを防止するために、ロッカーの目の高さの位置に「心の空間」を作り、家族の写真を飾らせてたり等しています。

2歳の時に入所したY男のお母さんとの関係の再構築には、16年かかりました。子供にとっては、気の遠くなるような長い長い時間の流れです。この1か月ほどで劇的に変化。就職前に何度もお母さんと外出ができるようになり、旅立つ日は、お母さんとダンナさんとが空港まで見送りに来てくださいました。Y男が幼児の頃、行方不明のお母さんを探すためにお母さんの知人宅に行ってみたり、見つかった後も「用があって市内に来たので、ちょっと寄りました」と嘘を言ってアパートをのぞいてみたり、強引に手紙や「友愛通信」を送り続けたり、やれることはやり続けました。職員達が諦めることなく子供の気持ちを16年間発信続けた結果、お母さんにとっては母親的存在だった曾祖母の死を転機としてお母さんの行動が変わったのです。

振り返るならば、お母さんにも決して愛情がなかったわけではなく、お母さん自信が生きるのに必死で、また自分を受入れてくれる人との出会いを求めてさまよっておられたのだと分かります。一時期Y男を児童相談所で里子に出す話も出ていましたが、お母さんがその時拒否した思いが今分かります。「いずれ自分が」という愛情は持ち続けておられたのだと思います。16年間の時を越えて、Y男とお母さんは普通の親子にもどりました。

こんな話は、世間の常識では考えられないことかもしれません。しかし関係の修復に10年以上かかるなんてことは、児童養護施設ではよくあり得ることで、長く勤務する職員がいるからこそできることでもあります。子供たちにとっての心の中の主人公はあくまでも親であり、私たち施設職員は黒子（くろこ）なのです。

もう一つの三原則もここで取りあげておかねばなりません。石井十次の青春の挫折からの立ち直り三原則です。石井十次資料館の隣の研修館にはイラスト入り12枚のパネルで説明しています。運命を変える三原則と言ってもよいでしょう。①親、あるいは親に代る人の愛情。②志教育。③出会いです。石井十次が青春時代、様々な失敗から立ち上がることができたのは、この三つを両親が先手を打って準備できたからだとは私はとらえています。

ここで持ち出したのは、①の親、あるいは親に代る人の愛情を説明するためです。3月18日付の読売新聞を読んでいたら辛酸なめ子という漫画家が自分の両親について書いておられました。

「両親はともに教師でした。厳格で禁欲的。私がか子供の頃は、テレビにラブシ

ーンが映ると画面の前に立ちほだかったり、週刊紙に扇情的な表現があれば黒塗りしたりしました。」「私は常に両親の視線を感じ、遠慮して過ごしてきました。」

これも一般家庭の親の愛情です。性的関心の高まる思春期、誘惑に流されないように精一杯我が子を守ろうとされたのでしょう。

施設で育つ子供たちは、対極にある自由で開放的な家庭ばかりをイメージしがちですが、このような厳格なしつけをする家庭もあるわけです。これも愛情です。その愛情を辛酸なめ子さんはある程度理解できたから、反発できなかったのでしょう。では「親に代る人の愛情」とは何か。施設の職員たちも子供たちに精一杯愛情を注ごうとしています。6名の卒園生たちも、在園時は施設生活へのグチや不満を多く感じたようですが、10年以上、職員たちの愛情に恵まれていたと、私は自信を持って言えます。でなかったら、このようにりっぱな青年に育つはずがありません。「君たちは、この友愛園で職員たちの愛情に十分に恵まれて来たのだよ」そう伝えておきたいのです。つまり、①の親あるいは親に代る人の愛情はクリアーできているよ、とそれぞれに伝えたいのです。

以下が当日私の話した内容です。

今から卒園生6名に別れの言葉を述べます。「卒業論文」では自分の家族について全く触れなかった者もいたけど、私は、主にそれぞれの家族との関係について話します。後に腰かけている後輩たちもみんな、家族の問題でここに来ているのです。先輩がそれをどう乗り越えたのかをイメージできれば、後輩たちも勇気を得るだろうと思います。後輩たちの中には、お母さんとの再会がまだできていない者もいます。再会に何年かかるか分からないけど諦めないでほしいと思います。

R男！ R男がお母さんと一緒に、ここに入所するために来た日のことを、私ははっきり覚えている。小1の終り頃だったと思う。R男がお母さんの膝の上に座ろうとした時に拒否され、その時のR男の淋しそうな表情が忘れられない。お母さんがその後亡くなって、お祖父さん、お祖母さんが親代りとしてずっと支え続けてくださった。途中からおばさんも支えてくださることになった。

幼少期お母さんの愛情を充分にもらえてなかったようであるし、淋しさを分かち合う兄弟もいないし、この子は思春期の壁を乗り越えることができるだろうか心配もしました。お祖父さんお祖母さんおばさんの支えでなんとか無事にここまで歩いて来れたのではないかと思う。感謝しなければならない。

しかし、まだR男は脱皮できてないように見える。人間関係作りにおいてまだ

壁を作っている部分があるのは、自分の今までの運命を受け入れてない部分があるからだろうと思う。

岡山の大学に行ってから、ほんとうの自分の運命を変える。つまり切り開く戦いが始まるのであろうと思う。人は変えられないけど、自分を変えられる。自分の考え方、物事のとらえ方をかえることで運命も変わる。

素晴らしい能力を持っているので、またR男の自律力という強い武器を使って、自信を持って将来の夢に向かって挑戦してほしい。

Y男！ Y男は野球が好きだから、野球に例えて話をします。この1か月ほどで急に運命が変わり始めている。9回の裏二アウトから、逆転の2塁打を打ったようなものかもしれない。Y男もそう思うだろう。

Y男がここに来た2歳の頃は、お母さんは時々面会にも来てくれていました。しかし、お母さんもまだ若く、途中からなかなか来られなくなった。保母さんたちが曾祖母さんやお母さんの知人の所に訪ねていたりして、なんとかお母さんとの縁を切らさないように努力しました。その後もお母さんとの関係は途切れ途切れで、約束しながら入学式にも来られなかったり卒業式にも来られなかったり、はっきり言って、裏切られることも多かった。随分くやしい思いもして来たと思う。普通だったら、ヤケのヤンパチになって非行に走ったりするものだけど、よく耐えたと思う。りっぱだった。やはり妹たちへの愛情があったから耐えられたのだと思う。職員たちには反抗もしたようだけどね。

このまま放っておいたら、ほんとうにお母さんとの縁が切れてしまうので、園長室で5人全員集まってお母さんとの関係を作り直す“作戦会議”をしたね。諦めず10年以上ずっと働きかけて来たのが良かったと思う。これが運命を変えるという事だと思う。

Y男は頭の良い男です。これからY男のほんとうの人生が始まります。妹4人にしっかり社会人としての後姿を示してあげてほしい。兄弟5人作ってくださったのは、お母さんからの最高のプレゼントでした。

S男！ 高校に入学して野球部に入って活躍しようとしたけど、自己コントロールできなくなって問題を起こして、退部させられて謹慎にもなったね。一時期は高校を退学になるのではないかと心配にもなったが、なんとかその後大きな問題を起こすことなく通学しそして卒業し、みごと自衛隊に入隊できることになりました。S男のその後の努力の結果だと思う。

S男は友愛園の中では兄弟3人の中の一番下だったから、常に兄たちの陰で育

って来ているので、自分の存在をアピールするチャンスもないままに成長して来ている。お母さんの件でも期待を裏切られることが多く、S男が自覚する以上に不満や不信がたまっていったのだろうと思う。よく耐えて来たと思う。石井十次も思春期の頃は失敗ばかりしていたが、しっかり立ち直ることができました。それは志を持っていたから。

国を守る、世の人々を守るという志を持ち続ける限り、少々の失敗をしても立ち上ることができる。しっかり自己コントロールして生きて言って下さい。S男作った看板が友愛社のアチコチに掲げてあります。すばらしい力を持っているのだから自信を持って生きて行ってください。

T男！ T男もY男、S男と同じ2歳頃に入って来た。落ち着きのない何を考えているのかよく分からないような元気な幼児さんでした。小学生の頃も腕白で、保母さんにバケツの水をぶっかけたこともあったのじゃないかな。

T男もお母さんの件では色々と苦勞して来たね。兄のA男の陰に隠れていたからあまり目立たなかったけど、T男なりに色々考えたのだろうと思う。お祖父さんお祖母さんが親代りとして、ずっと支え続けてくださいました。感謝を忘れないようにしないといけないし、これからも頼りにしていかねばなりません。

T男は、高校でボート部に入ってから大きく成長したのだと思う。精神的にもたくましくなった。ボート部の先輩ハルナさんの死は悲しい出来事だったけど、しっかりとその志を引き継いで大学でもがんばってほしい。

大学では福祉の勉強をする。「児童養護施設の道に進みたい」、「自らの運命を変えようと生活する子供らの支えとなれるような存在になりたい」と書いていたけど、大学ですばらしい友人や先生方に出会うことで、世界はもっともっと広がっていくと思う。T男もすばらしい力をもっている。大学で花開くのだろうと思う。

K男！ K男が入って来たのは5歳の時だったか、まだ小学校に入る前だった。お母さんとのトラブルがあった後で、すごく自信のなさそうな少年でした。入所した頃一晩中泣き叫んでいたんだって？その後間もなくお母さんもキチンと謝罪して下さって、親子関係はスムーズに流れていきました。しかし、児童相談所の見つめる目は厳しく、10年以上、家には一時的に帰れても、泊ることは許されないままに時が流れました。その後、お父さんとお母さんとの関係も悪くなりました。

このまま放っておいたら、K男が社会人になって帰る家がなくなると考え、児

童相談所に働きかけて、お母さんの家で泊まれるように、今新たな関係づくりをしている最中です。

もうお母さんの抱えている病気についても理解できたと思うし、K男自身も抱えている弱さについても、ある程度自己認識できていると思う。今後、お母さんを支えながらも、しっかり健康面での自己管理が必要です。体調に異変を感じたら、いつでも友愛園に連絡してください

K男にはすばらしい妹がいます。今後、妹ともしっかり連絡し合って互いに支え合ってほしいと思います。

Y子！ Y子もお母さんのことでは、長いこと淋しい思いをして来たね。でもついこの前、6年ぶりに行方不明だったお母さんに再会することができました。児童相談所の先生が色々と間に入ってお世話にしてくださったおかげです。お母さんも弱く、自分のことで精一杯でした。アルコールに負けて入院したりしていて、会えなかったのです。とてもY子にまで心を寄せる余裕がなかったのです。しかし、今回面会することができて、運命が変わって来ています。

大事なものはこれからです。一緒に住もうというようなことになったら、二人ともおぼれてしまいます。互いにそれぞれに生活の場と職場をしっかりと確保した上で、支え合う関係を作っていかなければなりません。

Y子さんはこれから就労支援施設で働きます。自分に自信がなく、自分の思っていることを伝えることが苦手とか、気持のコントロールが苦手とか言いましたが、友愛園で忍耐力と精神力を身につけたわけだから、もっと自信をもってがんばってほしいと思います。